

令和5年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子供の姿や教育内容について知っているか。	A	○92%(昨年度91%)の保護者が肯定的に回答している。 ※今年度5月より、学校行事や参観会など、予定通り保護者に参観していただくことができた。また、各種たよりやホームページ、コードモンなどを通じて日々の学校の様子を発信することができた。引き続き、保護者に御理解いただけるよう、情報発信に努めていく。また、昨年度2月より連絡ツールアプリ「コードモン」を有効に使用していく。	○参観会、コードモンでの情報発信など、日々の子どもの様子がわかり、保護者、子ども、先生ともに共有できている。 ○教師が共通の認識をもって、それぞれの役割、立場において協力し、指導にあたっている様子がうかがえる。家庭との連携や情報提供等においても良好に行われているものと考える。 ○学校の様子をHPや連絡ツールアプリを利用して有効的に情報発信している。ほとんどの生徒が「先生は自分のことを理解している」と回答し、人間関係が良好であると思われる。引き続き、御指導願います。 ○多くの保護者、生徒が学校への理解、先生への信頼が高く、素晴らしいと思う。きめ細かな生徒理解や対応を今後も続けていきたい。 ○学校からのお手紙をコードモンでの発信により、今まで子どもが手紙を出す予定がわからなかった家庭や外出先でこの予定がすぐに確認できるようになり、多くの家庭は助かっている。5 ○HPでの情報発信は昨年度のもの、昨年度と比較してだいぶ減っている。体育大会や虹南祭の動画は昨年度は公開されたが、今年度はなかった。どちらも平日開催だが、夫婦共働き家庭も多いため、参観が叶わない方がたくさんいる。大変かと思うが、得意な先生に任せてHPでの情報発信をより充実してほしい。 ○授業参観や運動会が以前のように実施されたことで、保護者が学校を身近に感じられた。
		先生は子供のことを理解して指導にあたっているか。	A	○92%(昨年度89%)の保護者が肯定的に回答している。また、97%の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答している。 ※生活記録「視点」や明るい学校生活を送るためのアンケート(年5回)、自分の心の中の絵を描く「心の天気」、教育相談(年3回)を有効に活用し、生徒一人一人の内面理解を引き続き丁寧に行っていく。	
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)	よくわかる授業の実践	生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	A	○91%(昨年度93%)の生徒が肯定的に回答している。 ○82%(昨年度80%)の生徒が肯定的に回答している。 ○86%(昨年度83%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1人1人端末等のICT機器を有効に活用するとともに、教職員の研修テーマである「主体的に学習に取り組む生徒の育成」を目指した授業改善、その基盤となる落ち着いた授業の雰囲気などが、この結果に表れていると思われる。引き続き、生徒の内面理解を基盤とし、他者と協力的に学習に取り組む場面の設定、単元を見通した授業設計、そして生徒が主体的に取り組む授業となるように取り組んでいく。	○伝え合い学び合う力が付いていると思います。 ●生徒自らが授業を通して、自分の興味、関心を高めようになれば、目標である「よくわかる授業の実践」が実現できるものと思います。今後とも継続して取り組んで、自分の興味、関心を高めようと思えます。 ●ICT機器を有効利用して授業改善につなげていきたい。 ○生徒が進んで学習しているために、グループ学習や他者の意見を聞いたり自分の意見を述べたりする場面を増やしていくことにより、互いの意見を尊重し合い、他者から認められていると感じる経験を積み重ね、自信をつけることが大事だと思います。 ○どの学年も活発に授業を受けている印象をもちました。 ○ICT機器の活用により、子どもたちにとって、より効率的な学習ができてきているのではないかと思います。 ○昨年度より評価が上がっているのがよい。タブレット学習は楽しんでいると思う。 ●定期テストの点数を見て、どのくらい点数が取れば生徒が学習内容を理解しているというのでしょうか。 ○評価が増えたことが少し気になります。生徒は地域のどのようことに興味があるのか、わかればお知らせください。 ●タブレットの導入で学習意欲が向上するのを期待しましたが、以前とそれほど変わらないように思います。進んで学習できる面白さが入るとよいのでしょうか。
		生徒は、進んで学習しているか。	B		
		生徒は、住んでいる地域のことに興味があるか。	B		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	主体性を育む実践	生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	B	○80%(昨年度は77%)の生徒が肯定的に回答している。 ※1年75%、2年72%、3年88%と学年間で意識の差が大きい。高校入試ではなく、生き方を考えていこうと、各学年の進路学習を濃いものにしていきたい。 ○89%(昨年度86%)の生徒が肯定的に回答している。74%の保護者が「目標をもち、よくまわらうと粘り強く取り組む子に近づいている」と肯定的に回答をしている。 ※今年度もレジリエンス授業を学期ごとに1回ずつ行っている。しなやかなくまじさ、一度気持ちが落ち込んでも、できるだけ早く回復していくための心のもち方等を、今後も生徒に身に付けさせていく。また、来年度以降も、生徒が主体的に参加していく機会を、行事や生徒会活動等の特別活動の中で機会を作っていく。	○人とのかかわり合いを深め、将来のことや生活など、視野を広くもち考え学んでいく大切さを感じた。 ○学校経営目録でもある「いのちの教育」の推進に係る内容3項目のうち1つですが、他の2つ比べて評価Bであるが、肯定的回答については、昨年度に比べ3ポイント上がっている。取組の努力と成果については出ているものと理解できる。 ●「進路」や「将来の夢」というテーマが湧かなくなり、焦ってしまう子どももいる。生徒が先生に気軽に相談できるような機会や雰囲気があると助かる。 ●大きな失敗や挫折を経験したことがない子は多いと思うので、レジリエンス授業の取組や困難なことにも挑戦していくことは大事だと思う。2 ●生徒自身の将来的な項目は他の項目と比較して低いなと思った。まだ中学生なので、将来のことを聞かれても先のことを見据えている子は少ないと思った。早い段階からの進路や生き方を考える気づきの指導をお願いしたい。3 ○学校生活、家庭生活を通して、視野を広げつつ、自身の進路や将来の生き方などについて考えを巡らせる機会を増やしていくべきだと思う。 ○職業人講話や職業体験は、いろいろな職業を知り、とてもいい機会だと思う。実際に私の子どもは職業体験のことで、多くの興味ある職業を選び、貴重な経験ができたことにより、将来その職に就きたい、とさらに思うようになった。 ○進路については現実はその通りだとして、3年生が一番高く評価されているのはよいことだと思う。 ○保護者向けのレジリエンス授業をしていただきたい。 ○目標をもち、毎日の生活を送っている子が増えているという数値は大変たくましく感じる。
		生徒は、目標を持ち毎日の学校生活を送っているか。	B		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	共生する態度を育む実践	学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	A	○96%(昨年度94%)の生徒が肯定的に回答している。 ○93%(昨年度91%)の生徒が肯定的に回答している。 ○90%(昨年度87%)の生徒が肯定的に回答している。 ※一人一人が安心・安全な学校生活を送るために、多くの生徒が自分以外の他者のことを考えた言動を取っていると言える。人間関係づくりを大切に他者の良い面を認めていけるよう、教育活動の中で機会を逃さず支援していく。	○子どもたちが抱える悩みや課題丁寧に受け止めていただけている。 ○早期発見、早期解決に向け、組織的に取り組んでいることから、生徒が充実した学校生活ができる環境が整っていることが推察される。 ○将来に向けて、協調性、他人を思いやる心が大切。生徒一人一人の心に寄り添うようをしていただきたい。 ○すべての回答が昨年度より上回っていたので、引き続きこのような取組をよい。 ○たさんの生徒が肯定的な回答だった。学校は勉強する場でもあるが、楽しく生活をしていることが大事。友達や先生などに思いやりをもって接して欲しい。 ○穏やかだが、活気ある地域の様子を見せられるよう、一地域人として心がけていきたい。 ○学校全体の雰囲気はもちろん、学年・学級の雰囲気もとてもよく楽しく学校に通っている。悩み事があっても、相談できる友達や先生がいることは本当にありがたい。 ○良くも悪くもスマホを使って相談したり話したりすることができているようにもみえる。 ○すべての項目が向上しているのはすばらしい。問題に真摯に向き合い、また居場所づくりもできていると感じる。2
		生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。	A		
		生徒は、学校が楽しいと感じているか。	A	※問題の早期発見、早期対応はもちろんのこと、しっかりと一人一人の生徒の心に寄り添い、内面理解に努めていくとともに、魅力ある学校づくり、居場所づくり、授業づくりを推進していく。	
健やかでつよい心身の育成(心豊か)	心身を成長させる諸活動の実践(南中賛歌)	生徒は、あいさつや返事がしっかりできるか。	A	○97%(昨年度96%)の生徒が肯定的に回答している。「お子さんはあいさつや返事が身に付いている」に肯定的な回答をされた保護者の方も88%と多い。 ※今後も、あいさつが活発に交わされる学校を目指し、生徒会を中心に南中賛歌の「美しくあいさつ」について考え、実際の姿として表せるようにしていく。学習あいさつ運動では、学習の小学校を巻き込み、学校全体で美しくあいさつを考えていく。また、授業や地域でのあいさつなどにも力を入れていく。	○進んで他者のためになることに気づけようという、大人の姿を見せることが大切という考えに共感。 ●令和5年度共通地域づくり協議会主催の地域活動事業運営に、中学生ボランティア(豊田南中学校限定)を募集。6月4日「春の環境美化活動」13名、7月29日「共通地域づくり協議会」14名、11月5日「秋の環境美化活動」15名、計12名参加。ボランティア活動について、地域での参加者の増加を強く願う。 ○中学生は地域にとって大切な人材です。R6年度には、青城地区で中学生以上全住民アンケートを計画しています。夏休みににはボランティアによるアンケート集計作業の御協力をお願いします。 ●校歌をすべて覚えていない、歌えない生徒が多いので、校歌を歌う機会を増やすことはよいと思う。 ○校内だけでなく、道端ですれ違っても挨拶してくれる子どもいます。 ●ボランティア活動の項目は低いと感じました。 ○南小の門前付近で複数の中学生と出会うことが回があった。門扉をそのままにして、伝えたと、「ありがとうございます。お願いします。」などの言葉が返ってきて大人だなと感じる。 ○資源回収などでは多くの生徒がてききと体を動かしていた。地区の夏の集まりや祭典などにも多くの中学生楽しそうに参加しており、感心している。 ○挨拶はよくなってきていると思います。ボランティアは少し構えてしまう部分がありますが、朝清掃ボランティアは気軽に参加できて、とてもいい機会だと思います。 ○コロナが明けたことでボランティアやコミュニケーションの機会が増えたように感じる。コロナ禍を乗り越えたことを自信に変えて成長してほしい。 ○合唱コンクールはみなさん一生懸命取り組んでいて感動しました。 ●担当者が決まっている朝清掃はボランティアとは言えないかもしれませんが、ボランティア意識の啓蒙はどのようなことをされているか、わかれば教えてほしい。 ●地域での挨拶は今年一。
		生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。	—	○南中賛歌の「明るく歌声」では、校歌を歌う機会は5月までコロナウイルス感染症が感染症法で2類だったため、校歌を歌う機会は設定しなかったが、5類に移行したため、合唱コンクールでは全校で歌うことができた。	
		生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。	B	※儀式的行事等、校歌を歌う機会を今後増やしていきたい。校歌を堂々と歌うことで愛校心を育てていく。 ○81%(昨年度80%)の生徒が肯定的に回答している。 ※朝清掃ボランティア等、進んで他者のためになることを素直な気持ち	

<学校関係者評価を受けてのまとめ>  
 ○学校からの情報発信を、すべてではないが紙媒体から通信アプリでの方法に変更した。出先でも確認でき、確実に情報が行き届くようになり、保護者には好評であった。  
 ○魅力的な学習課題の提示、グループ活動など他者とのやり取りをしたり、自分の考えを発表したりする場の設定、考えの時間の確保などを通して、より生徒が主体的に学習に取り組む環境をつくっていく。1人1人端末についても、その活用方法を考えて、環境づくりに生かす。  
 ○日記指導、アンケート、教育相談、保健室の利用の様子、普段の関わり合いなどを通して、生徒に寄り添った支援を実践できていると思われるので、より一層安全安心な集団に近づけるよう体制を整えていく。そして、SCおよび外部機関との連携も図っていきながら、不登校生徒、別室登校生徒を新規に増やさないための早期発見、早期対応をしていく。  
 ○共通・青城学府小中一貫教育による、あいさつ運動や健康教育、授業改善など、小中9カ年を見通した取組を推進する。また、校内ではたくさんの生徒がボランティア活動に参加している。しかし、コロナ禍の影響からだろうか、地域へのボランティア活動には消極的である。ボランティア活動の提示の仕方や称揚を行っていくなど、まずはボランティアを行う雰囲気を高めていく。  
 ○学校関係者評価委員の方々からも理解が得られ、改善点を含む貴重な御意見をいただくことができた。学校評価全体について、A評価が多いことは良いことであるが、改善につなげるためには、生徒、保護者、教員の三者比較を行うなど、アンケートの分析の仕方を検討した方がよいのではないかと御意見をいただいた。共通項目については変更できないので、生徒指導主事や各教科担任等が行うアンケート調査等を基に実態把握に努め、指導の改善につなげていく。